

# インド学インド仏教史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
インド学概論	アーリヤ人の宗教と生活	2	西村 直子	3	前期 水曜日 3講時	
インド学概論	ヴェーダ祭式を巡る議論とその展開	2	西村 直子	4	後期 水曜日 3講時	
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその1ー	2	桜井 宗信	3	前期 月曜日 1講時	
インド仏教史概論	インド仏教史概説ーその2ー	2	桜井 宗信	4	後期 月曜日 1講時	
パーリ語	パーリ語入門	2	西村 直子	3	前期 水曜日 5講時	
パーリ語	パーリ語講読	2	西村 直子	4	後期 水曜日 5講時	
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅰ	2	桜井 宗信	3	前期 月曜日 2講時	
チベット語	古典チベット語初級文法Ⅱ	2	桜井 宗信	4	後期 月曜日 2講時	
インド学各論	祭式文献購読 ヴェーダ散文選	2	西村 直子	6	後期 木曜日 2講時	
インド学各論	祭式文献購読 ヴェーダ散文選	2	西村 直子	5	前期 木曜日 2講時	
インド仏教史各論	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	5	前期 火曜日 2講時	
インド仏教史各論	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	6	後期 火曜日 2講時	
インド仏教史各論	インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践	2	宮崎 泉	集中	集中講義	
インド学演習	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	5	前期 火曜日 5講時	
インド学演習	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	6	後期 火曜日 5講時	
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	5	前期 月曜日 3講時	
インド仏教史演習	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	6	後期 月曜日 3講時	

科目名：インド学概論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB33301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーリヤ人の宗教と生活

2. Course Title (授業題目) : Life and religion of the Āryan people

3. 授業の目的と概要： 本講義では、最古の『リグヴェーダ』(紀元前1200年頃編集固定)をはじめとする各ヴェーダ学派の諸文献に基づき、アーリヤ諸部族が持っていた宗教とその整備過程、並びに社会の変化を辿りながら、各学派、各文献ジャンルの特徴について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れることによって、伝承実態の理解をも目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides an overview of various Vedic texts, starting with the oldest one that dates back to 1200 B.C., the Rigveda. The aim is to get students acquainted with history and characteristics of various Vedic schools and their primary texts in connection with the Āryans' religion, life and social development. Weekly readings of translated Vedas in class will help students see the successive nature of the Vedic religious tradition.

5. 学習の到達目標：・当時の人々が世界をどのように理解していたかを、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。

・宗教儀礼および宗教文献の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon the completion of this course, students will be able to interpret the Āryans' views on life and death in line with the ancient Vedic tradition. They will also gain a better understanding of relations between the development of religion and social cha

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業の概要 インド学 サンスクリット語と印欧語族 インダス文明とアーリヤ人

2. アーリヤ人の宗教と生活1 移住遊牧生活から定住生活へ： 異部族との接触、祭官階級と王族階級（ヴァルナ [四姓] を巡る議論）、都市国家の成立（自由思想家達の台頭と仏教興起を視野に入れて）

3. アーリヤ人の宗教と生活2 ヴェーダ祭式概説： 部族全体の繁栄を祈願する祭式と、部族長個人のライフステージに応じて行う祭式

4. アーリヤ人の宗教と生活3 ヴェーダ文献概説： ヴェーダ学派と文献ジャンル、祭官組織

5. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力1 文献の編集方針と祭官家系、伝承スタイル、世界の創造と人類の起源

6. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力2 インドラ讃歌

7. リグヴェーダ 神々を讃える言葉の力3 対話讃歌 プルーラヴァースとウルヴァシー

8. アタルヴァヴェーダ 呪法の伝統

9. ヤジュルヴェーダと祭式の整備1 祭官組織とヤジュルヴェーダ学派、マントラとブラーフmana、祭式整備の過程

10. ヤジュルヴェーダと祭式の整備2 神々との相互関係、神話、神学議論

11. ヤジュルヴェーダと祭式の整備3 祭式整備に見る社会の変化

12. サーマヴェーダ ソーマ祭が果たした役割： 大規模祭式と王権儀礼

13. 諸学派のブラーフmana文献 神学議論と神話による権威付け

14. ウパニシャッド1 その位置づけと意義

15. ウパニシャッド2 神学者たちの論争

※上記は必要に応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

課題提出（随時、40%）、レポート（60%）

9. 教科書および参考書：

資料を配付する。参考書は授業で指示する。

Reading and reference materials will be distributed in class.

10. 授業時間外学習：予習として前回の資料と指示された参考資料に目を通す。復習として動画資料を視聴する。

講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

I would like you to review printed materials and your notes before and after class. Feel free to ask about any unclear points you discover, even if they seem trivial. I always welcome questions.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

後期のインド学概論と併せて履修することが望ましい。

It is recommended that students combine this course with "Indological Studies (General Lecture)" in the second semester.

科目名：インド学概論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB43301, 科目ナンバリング：LHM-PHI203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ祭式を巡る議論とその展開

2. Course Title (授業題目)：History of discussions and approaches to Vedic rituals

3. 授業の目的と概要：本講義では、アーリア人の宗教文献群「ヴェーダ」から、特に紀元前800年頃以降に順次編集された文献を中心に、当時の人々の死生観と後の仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想について概説する。できるだけ多くの原典翻訳に触れ、アーリア諸部族の定住化に伴う社会の変化を個々の議論から理解することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces a bulk of religious texts gradually accumulated by the Āryan people since 800 B.C. The aim of the course is to help students understand views on life and death in the Vedic religion as well as development of 'karma' and 'saṃsāra' concepts during the era of Buddhism. Through weekly readings of translated Vedas in class students will learn about social changes that accompanied the Āryan's transition from nomadic to sedentary life.

5. 学習の到達目標：・当時の人々の死生観を、インド最古の宗教文献群ヴェーダ Veda の伝承に則して把握することができる。  
・仏教時代に確立した「業と輪廻」の思想が、ヴェーダ以来の議論を背景としていることが理解できる。  
・宗教儀礼及び神学議論の整備と社会の変化とが連動していることが理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon the completion of this course, students will be able to interpret the Āryans' views on life and death in line with the ancient Vedic tradition. They will also be able to discern the roots of such concepts as 'karma' and 'saṃsāra' in religious dispute

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- なぜ祭式を行うのか1 祭式の目的とその変化
- なぜ祭式を行うのか2 息子の獲得 胎児の発生説に論じられる家系の継続
- なぜ祭式を行うのか3 なぜ地上に再生するのか 胎児の発生説に論じられる個人の継続
- なぜ祭式を行うのか4 死後の世界 「再死」とその克服
- なぜ祭式を行うのか5 エネルギーの循環と供物の循環
- なぜ祭式を行うのか6 受け継がれてゆく「私」 五火二道説
- 自己の原理と宇宙の原理1 シャーンディリヤの梵我同一説
- 自己の原理と宇宙の原理2 ウッターラカ・アールニの「有」の教説
- 自己の原理と宇宙の原理3 ヤージュニャヴァルキヤのアートマン論
- 祭式からの離陸1 自由思想家たちの時代とブッダ 沙門果経
- 祭式からの離陸2 輪廻からの解脱 不死の門
- 祭式からの離陸3 祭官階級、王族階級、法律の整備
- ヴェーダ補助学の伝統と展開1 法律文献の登場
- ヴェーダ補助学の伝統と展開2 文法学と諸分野の学問、哲学、医学、文学等
- 宗教と社会との連動 共同体と個人

※上記は必要に応じて変更する場合がある。

8. 成績評価方法：

課題提出(随時, 40%), レポート(60%)

9. 教科書および参考書：

資料を配付する。参考書は授業で指示する。

Reading and reference materials will be distributed in class.

10. 授業時間外学習：講義の前には、前回までの講義内容の中に不明な点がなかったかを、プリントやノートで確認し、講義後には、その日の内容に不明な点がないかを確認する。不明な点があれば、メモしておくこと。特に、素朴と思えるようなものでも疑問は放置せず、質問してください。質問は歓迎します。

I would like you to review printed materials and your notes before and after class. Feel free to ask about any unclear points you discover, even if they seem trivial. I always welcome questions.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

原則として、前期のインド学概論の履修者であること。

The course is aimed primarily at the students that completed Indological Studies (General Lecture) in the first semester.

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31101, 科目ナンバリング：LHM-PHI204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 1－
2. Course Title (授業題目)：Outline of Indian Buddhist History 1
3. 授業の目的と概要： 釈尊（紀元前 5 世紀頃）に始まるインド仏教史の大まかな流れを理解するとともに、初期仏教の思想とその展開の一端を中期中観派の段階まで把握することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose of this course is to help students understand the outline of the Indian Buddhist history from the life and thought of Śākyamuni to the middle Mādhyamika.
5. 学習の到達目標：釈尊から中期中観派までのインド仏教に関する基礎知識を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course is designed to provide students with basic knowledge on early Buddhism focusing mainly on the thought of Śākyamuni to the middle Mādhyamika.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 序論：仏教成立時代の社会と思想の概略
  2. 釈尊の生涯と主な事蹟
  3. 初期仏教の思想- 1 -
  4. 初期仏教の思想- 2 -
  5. 初期教団とその分裂
  6. 『俱舎論』を中心とした説一切有部の思想- 1 -
  7. 『俱舎論』を中心とした説一切有部の思想- 2 -
  8. 大乘仏教の勃興
  9. 初期大乘経典- 1 -
  10. 初期大乘経典- 2 -
  11. ナーガールジュナの思想- 1 -
  12. ナーガールジュナの思想- 2 -
  13. 瑜伽行唯識派の思想- 1 -
  14. 瑜伽行唯識派の思想- 2 -
  15. 中期中観派の思想
8. 成績評価方法：

レポート [100%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。
10. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
オンデマンド型オンライン形式で実施する。  
参考書は各単元において随時追加紹介を行う。

科目名：インド仏教史概論／ History of Indian Buddhism (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 1 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41101, 科目ナンバリング：LHM-PHI204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド仏教史概説－その 2－
2. Course Title (授業題目)：Outline of Indian Buddhist History 2
3. 授業の目的と概要： インド仏教における「密教」の占める位置とその意味について学んだのち、基本的な専門用語にも留意しながら、初期から後期まで史的展開に従って「インド密教の概略」を把握し、併せてインド密教と密接な繋がりを持っていたチベット仏教史の概略をも理解することを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aims of this course are to
  1. Understand the meaning of the Buddhist Tantrism in Indian Buddhist history.
  2. Learn about the outline of the history of Indian and Tibetan Tantric Buddhism.
  3. Grasp the fundamental Indian Tantric Buddhist technical terms.
5. 学習の到達目標：インド密教の史的展開と思想に関する基礎知識を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop basic knowledge of historical development and thought on the Indian Tantric Buddhism.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 序論：インド密教とは何か
  2. 初期インド密教 -1-
  3. 初期インド密教 -2-
  4. 初期インド密教 -3-
  5. 中期インド密教 -1-
  6. 中期インド密教 -2-
  7. 中期インド密教 -3-
  8. 後期インド密教 -1-
  9. 後期インド密教 -2-
  10. 後期インド密教 -3-
  11. 後期インド密教 -4-
  12. 後期インド密教 -5-
  13. 後期インド密教 -6-
  14. チベット密教 -1-
  15. チベット密教 -2-
8. 成績評価方法：

レポート [100%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、教員が作成したドキュメント資料及び動画資料を使用。  
参考書は各単元において随時追加紹介する。
10. 授業時間外学習：レポート作成の準備も兼ねて、講義内で関心を持った事柄に関して参考書を使ってより深く調べてみる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
オンデマンド型オンライン形式で実施する。  
「インド仏教史概説－その 1－の既習者であること」を履修の原則とする。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：3 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB33501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：パーリ語入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Pāli language

3. 授業の目的と概要：サンスクリット文法を基に、パーリ語への歴史的変化に注目しながら、基本事項を学ぶ。 Geiger, A Pāli Grammar を参考にする。その後、Anderson, A Pāli Reader を用い、具体的テキストに即して、文法事項を確認しながら原典を読む。前期はブッダの前身譚である「ジャータカ」を扱う。必要な参考書、研究文献をその都度確認しながら、合理的な訓練に努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course introduces essentials of Pāli grammar, placing emphasis on morphological and phonological changes of Pāli language from Sanskrit. It also enhances the development of students' skill in reading Pāli texts. Students will read some tales of Buddha's previous life (Jātaka) with ANDERSEN: A Pāli Reader with GEIGER-NORMAN: A Pāli Grammar.

5. 学習の到達目標：サンスクリット語の知識を基にパーリ語文献の研究に必要な能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students will be able to acquire essential reading skills in Pāli based on Sanskrit Grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション(教科書及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
- 2 「スンスマーラ・ジャータカ」 (1)
- 3 同 (2)
- 4 同 (3)
- 5 同 (4)
- 6 「バカ・ジャータカ」(1)
- 7 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「シーハチャンマ・ジャータカ」
- 10 「ササ・ジャータカ」(1)
- 12 同 (2)
- 13 同 (3)
- 14 同 (4)
- 15 同 (5)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader. 後者は大学に必要な部数が揃っているが、自分で持っていないも後まで役立つ。辞書、参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する。

10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度の量を読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。4 semester のパーリ語と併せて履修することが望ましい。

科目名：パーリ語／ Pali

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB43501, 科目ナンバリング：LHM-PHI212J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：パーリ語講読

2. Course Title (授業題目)：Pali Reading

3. 授業の目的と概要：文法事項，シンタクス，仏教用語などについて，繰り返し復習確認しながら，Anderson の Reader から抜粋して読む。ジャータカ，ブッダの伝記，ダンマパダ，ミリンダパンハーなど，言語と内容の両面を大切に組み込む。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read some chapters of ANDERSEN: A Pāli Reader, e.g. Jātaka, Buddha's life story, Dhammapada, Milindapañha, etc. The course also helps students deepen their understanding both the grammatical points and that of the history of Buddhism.

5. 学習の到達目標：前期に習得した能力を基に，比較的明晰な原典を選び購読する。あわせて仏教文献に馴染む訓練をする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to acquire intermediate reading skills in Pāli.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 「マタカバッタ・ジャータカ」(1)
- 2 同 (2)
- 3 同 (3)
- 4 同 (4)
- 5 「ブッダの誕生」(1)
- 6 同 (2)
- 7 同 (3)
- 8 同 (4)
- 9 「四門出遊」(1)
- 10 同 (2)
- 11 同 (3)
- 12 同 (4)
- 13 『ダンマパダ』より
- 14 『ミリンダパンハー』より(1)
- 15 同 (2)

※上記内容は必要に応じて変更することがあり得る

8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (40%) および授業で示される理解度 (60%)

9. 教科書および参考書：

Geiger-Norman, A Pāli Grammar, D. Anderson, A Pāli Reader. 後者は大学に必要部数が揃っているが，自分で持っていないでも後まで役立つ。辞書，参考書等は授業の進行とともに紹介する。簡単な文法概要を作ってコピーを配布する

10. 授業時間外学習：受講者は単語を調べ，語形を確定し，訳すように努力すること。予習が難しい場合は，授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

3セメスターのパーリ語を受講していることが望ましい。初級サンスクリット語の既習者であることが望ましい。

科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB31204, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典チベット語初級文法 I

2. Course Title (授業題目) : Classical Tibetan Grammar

3. 授業の目的と概要： チベット文字の読み方・書き方に始まる古典チベット語文法への入門講座。  
教科書の例文に施されている適切な邦訳が、どうしてそのように訳せるのかを自ら吟味することで、読解力の養成を計る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This is an introductory course on the classical Tibetan grammar beginning with the method of pronouncing and writing the Tibetan letters.

5. 学習の到達目標：(1) チベット文字とその正書法を理解し、正しく音読出来るようになる。

(2) 古典チベット語初級文法の基礎事項を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goals of this course are to

1. Learn the pronunciation and orthography of Tibetan letters, and read aloud the Tibetan texts correctly.

2. Obtain the fundamental knowledge of basic classical Tibetan grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. チベット文字発音法・正書法-1-

2. チベット文字発音法・正書法-2-

3. チベット文字発音法・正書法-3-

4. 古典チベット語初級文法-1-

5. 古典チベット語初級文法-2-

6. 古典チベット語初級文法-3-

7. 古典チベット語初級文法-4-

8. 古典チベット語初級文法-5-

9. 古典チベット語初級文法-6-

10. 古典チベット語初級文法-7-

11. 古典チベット語初級文法-8-

12. 古典チベット語初級文法-9-

13. 古典チベット語初級文法-10-

14. 古典チベット語初級文法-11-

15. 古典チベット語初級文法-12-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

藤田光寛：『古典チベット語文法』（非売品；初回時に配布の予定）

10. 授業時間外学習：予習時には教科書記載チベット文字例文の音読練習を行い、復習時には新出事項の確認-発音法・正書法学習時には各文字の発音・書取練習，文法学習時には新出チベット語単語や重要文法用語の記憶など-を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生のみ履修可。



科目名：チベット語／ Tibetan

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB41203, 科目ナンバリング：LHM-PHI213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：古典チベット語初級文法Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Classical Tibetan Grammar & Reading

3. 授業の目的と概要： 先ず文法事項の復習と理解確認を兼ねて短い笑話を読み、次に Abhayadattaśrī が著したとされるインド密教行者伝『八十四成就者伝』の訳読を行い、チベット語資料の文献研究に必要な基礎的語学力を養成することを目的とする。但し前期における進捗によっては、文法事項の補足を先ず行う場合がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will translate Grub thob brgyad cu rtsa shiḥi lo rgyus (Hagiography of Eighty four siddhas) by Abhayadattaśrī into Japanese, so that they can get the basic ability of reading classical Tibetan literatures which is necessary for the philological study of Tibetan books.

5. 学習の到達目標：纏まった分量のテキストを相手にして、辞書の利用法の訓練も兼ねた十分な予習を行うことにより、古典チベット語で著された文献の読解力の深化を図る。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to comprehend classical Tibetan literatures, by reading a decent amount of Tibetan text and also by preparing for the assigned part in referring intensively to dictionaries.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. チベット語テキスト訳読-1-

2. チベット語テキスト訳読-2-

3. チベット語テキスト訳読-3-

4. チベット語テキスト訳読-4-

5. チベット語テキスト訳読-5-

6. チベット語テキスト訳読-6-

7. チベット語テキスト訳読-7-

8. チベット語テキスト訳読-8-

9. チベット語テキスト訳読-9-

10. チベット語テキスト訳読-10-

11. チベット語テキスト訳読-11-

12. チベット語テキスト訳読-12-

13. チベット語テキスト訳読-13-

14. チベット語テキスト訳読-14-

15. チベット語テキスト訳読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

1. 短い笑話 1 編

2. Abhayadattaśrī：『八十四成就者伝』（いずれもコピーを配布する）

10. 授業時間外学習：予習時に辞書を用いながら自らテキストの翻訳を行い、授業で発表出来るように準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

【重要】 原則として「インド学仏教史専修」所属の学生，及び前期で「チベット語」を履修した文学部生のみ履修可。

科目名：インド学各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB64201, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
3. 授業の目的と概要：本講義では『シャタパタ・ブラーフマナ』 I 6, 3 (B.C. 650 頃以降) 「Indra による Vrtra 退治」の神話を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weber の校訂本及び Kalyan-Bombay 版を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will read Satapatha-Brahmana I 6,3. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
5. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
  1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
  2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
  - 2-15 Satapatha-Brahmana I 6, 3
8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
9. 教科書および参考書：

Satapatha-Brahmana (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Student; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar 等。
10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review.
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし  
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。  
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド学各論／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB54201, 科目ナンバリング：LHM-PHI303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
  2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
  3. 授業の目的と概要：本講義では『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』第6巻 (B.C. 600頃以降) を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings (Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第3版]) をテキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。
  4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will read Chandogya-Upanisad VI. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
  5. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
  6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
    1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
    2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
  7. 授業の内容・方法と進捗予定：
    - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
    - 2-15 Chandogya-Upanisad VI.
  8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
  9. 教科書および参考書：

Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings. Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第3版]; Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morpholo
  10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  12. その他：なし  
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。  
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド仏教史各論／ Indological Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：5 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 『タントラ概論』講読 -1-
  2. 『タントラ概論』講読 -2-
  3. 『タントラ概論』講読 -3-
  4. 『タントラ概論』講読 -4-
  5. 『タントラ概論』講読 -5-
  6. 『タントラ概論』講読 -6-
  7. 『タントラ概論』講読 -7-
  8. 『タントラ概論』講読 -8-
  9. 『タントラ概論』講読 -9-
  10. 『タントラ概論』講読 -10-
  11. 『タントラ概論』講読 -11-
  12. 『タントラ概論』講読 -12-
  13. 『タントラ概論』講読 -13-
  14. 『タントラ概論』講読 -14-
  15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp.4-139.

※ コピーを配布する
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB62202, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
  2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
  3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
  4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
  5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
  6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
  7. 授業の内容・方法と進度予定：
    1. 『タントラ概論』講読 -1-
    2. 『タントラ概論』講読 -2-
    3. 『タントラ概論』講読 -3-
    4. 『タントラ概論』講読 -4-
    5. 『タントラ概論』講読 -5-
    6. 『タントラ概論』講読 -6-
    7. 『タントラ概論』講読 -7-
    8. 『タントラ概論』講読 -8-
    9. 『タントラ概論』講読 -9-
    10. 『タントラ概論』講読 -10-
    11. 『タントラ概論』講読 -11-
    12. 『タントラ概論』講読 -12-
    13. 『タントラ概論』講読 -13-
    14. 『タントラ概論』講読 -14-
    15. 『タントラ概論』講読 -15-
  8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
  9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyi rnam par gshag pa, 『薩迦五祖文集』第八卷, 中国蔵学出版社, 2015年8月, pp.4-139.
- ※ コピーを配布する
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
  11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
  12. その他：なし

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。



科目名：インド仏教史各論／ History of Indian Buddhism (Special Lecture)

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：0 単位数：2

担当教員：宮崎 泉

コード：LB98813, 科目ナンバリング：LHM-PHI304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践
2. Course Title (授業題目)：Mādhyaṃika in India on Emptiness, Compassion, and the Practice
3. 授業の目的と概要：インド中観派の思想と実践を理解するために、関連するインド仏教文献の和訳を資料として利用しながら、空とは何かを多角的に解説する。空性そのものだけではなく、慈悲との関係やインド後期中観派の実践も取り上げることで、インド大乘仏教の展開のひとつに触れることにもなる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a general introduction to the thought and practice presented by Mādhyaṃika in India. We will read a Japanese translation of related Indian Buddhist materials and investigate what is meant by emptiness from different perspectives. It may also provide a survey of an aspect of development of Mahayana Buddhism by focussing not only on emptiness itself but also its relationship to compassion, the practice of late Mādhyaṃika in India, and so on.
5. 学習の到達目標：インド大乘仏教の一派である中観派の思想と実践に関する理解を深めることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is a better understanding of the thought and practice presented by a school of Mahayana Buddhism in India, Mādhyaṃika.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. インTRODククション（授業の進め方と取り組み方について）
  2. 空性と慈悲（『八千頌般若経』）（1）
  3. 同（2）
  4. 慈悲の修習（『修習次第』初篇）
  5. 菩提心（『修習次第』初篇）
  6. 智慧と方便（『修習次第』初篇）
  7. ナーガールジュナ（龍樹）の説く空（『中論』）（1）
  8. 同（2）
  9. 中観派と自立論証（『明らかなことば』）
  10. 同（2）
  11. 同（3）
  12. 空性と智慧（『修習次第』初篇）（1）
  13. 同（2）
  14. 止と観（『修習次第』初篇）（1）
  15. 同（2）
8. 成績評価方法：

積極的な授業参加（40%）と複数回の課題（60%）による総合評価
9. 教科書および参考書：

授業中にプリントを配付し、教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業で扱う資料をあらかじめ配付するので、授業前に十分予習し、疑問点を整理しておくことが必要になる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし  
リアルタイム型オンライン形式で実施する。

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB52504, 科目ナンバリング：LHM-PHI311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
  2. Course Title (授業題目)：Vedic Literature
  3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 18 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。
  4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will read R.gveda IV 18 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
  5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
  6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to
    1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
    2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
  7. 授業の内容・方法と進度予定：
    - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
    - 2-15 R.gveda IV 18
  8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
  9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
  10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review.
- 1.1. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
  - 1.2. その他：なし  
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。  
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド学演習／ Indological Studies (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LB62503, 科目ナンバリング：LHM-PHI311J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
  2. Course Title (授業題目)：Vedic Literature
  3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 24 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student, Delbrück: Altindische Syntax 等を参照しながら、文献学の具体的な訓練を行う。
  4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will read R.gveda IV 24 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
  5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
  6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to
    1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
    2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
  7. 授業の内容・方法と進度予定：
    - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
    - 2-15 R.gveda IV 24
  8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
  9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
  10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review.
- 1.1. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business  
《実務・実践的授業/Practical business》
  - 1.2. その他：なし  
履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。  
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB51306, 科目ナンバリング：LHM-PHI312J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第1章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-

2. 『俱舎論』講読-2-

3. 『俱舎論』講読-3-

4. 『俱舎論』講読-4-

5. 『俱舎論』講読-5-

6. 『俱舎論』講読-6-

7. 『俱舎論』講読-7-

8. 『俱舎論』講読-8-

9. 『俱舎論』講読-9-

10. 『俱舎論』講読-10-

11. 『俱舎論』講読-11-

12. 『俱舎論』講読-12-

13. 『俱舎論』講読-13-

14. 『俱舎論』講読-14-

15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用.
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）.

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：なし

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史演習／ History of Indian Buddhism (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LB61305, 科目ナンバリング：LHM-PHI312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第 1 章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用.
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）.

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：なし

「インド学仏教史」専修所属学生のみ履修可。